

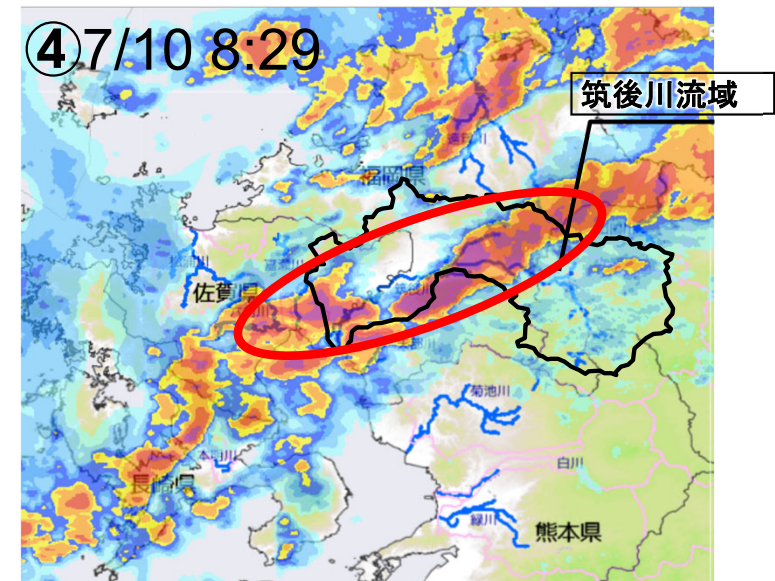
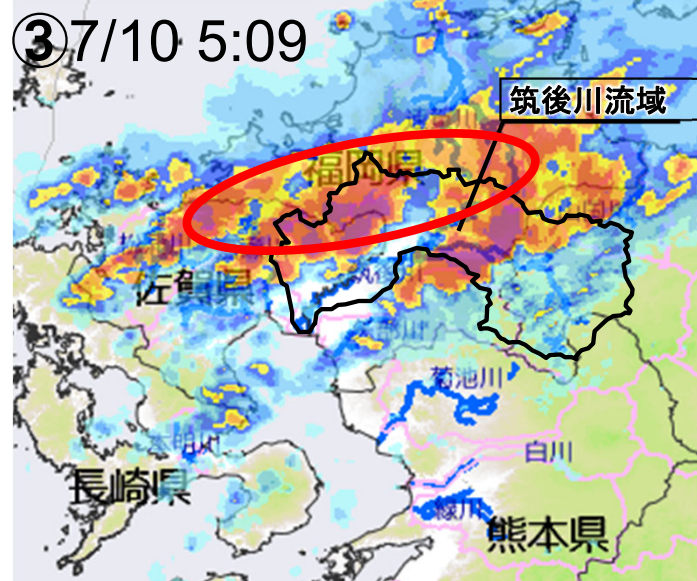
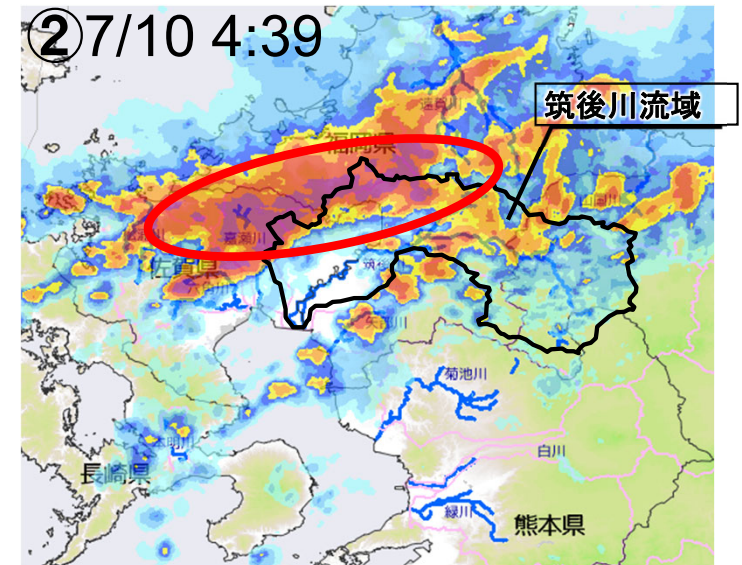
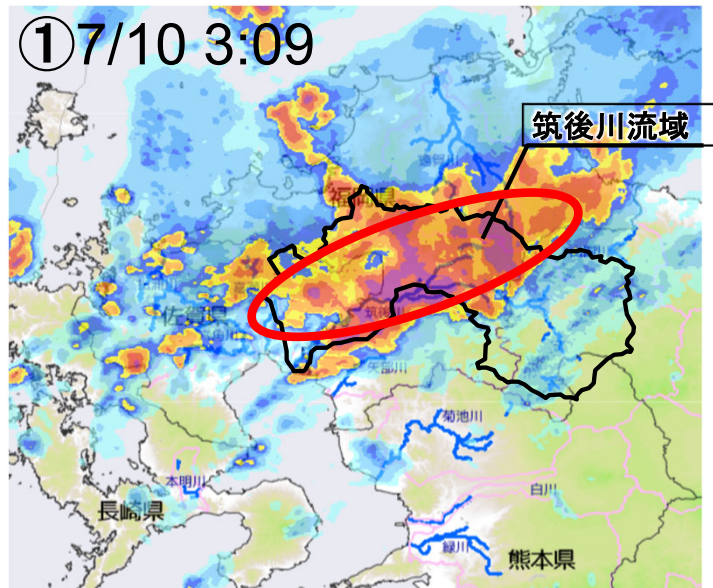
**第3回 松原・下釜・大山ダムとともに
水害に強い地域づくりを考える意見交換会
令和5年7月9日～10日筑後川の出水概要**

筑後川河川事務所

I. 筑後川流域の降雨の概要①（概況）

7月9日（日）12時から10日（月）15時にかけて梅雨前線が対馬海峡に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、九州地方では大気の状態が非常に不安定となり、広い範囲で強い雨が継続しました。

福岡県・大分県・佐賀県で線状降水帯が7月10日3時09分～8時29分の間に計8回発生し、10日6時40分に福岡県・大分県に大雨特別警報が発表されました。



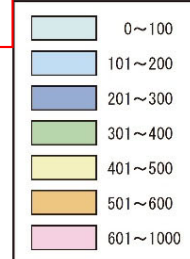
2. 筑後川流域の降雨の概要②（降雨分布と降雨量）

筑後川中流域では高強度の雨量を観測し、特に巨瀬川流域近傍の耳納山観測所では観測史上最大の降雨量を記録しました。6時間で300mmの降雨量を記録しています。

R5.7/9 18:00から7/10 18:00までの24時間※1降雨量の等雨量線図

※1 今回出水の降り始めから降り終わりまでの主な降雨時間帯

24時間
雨量

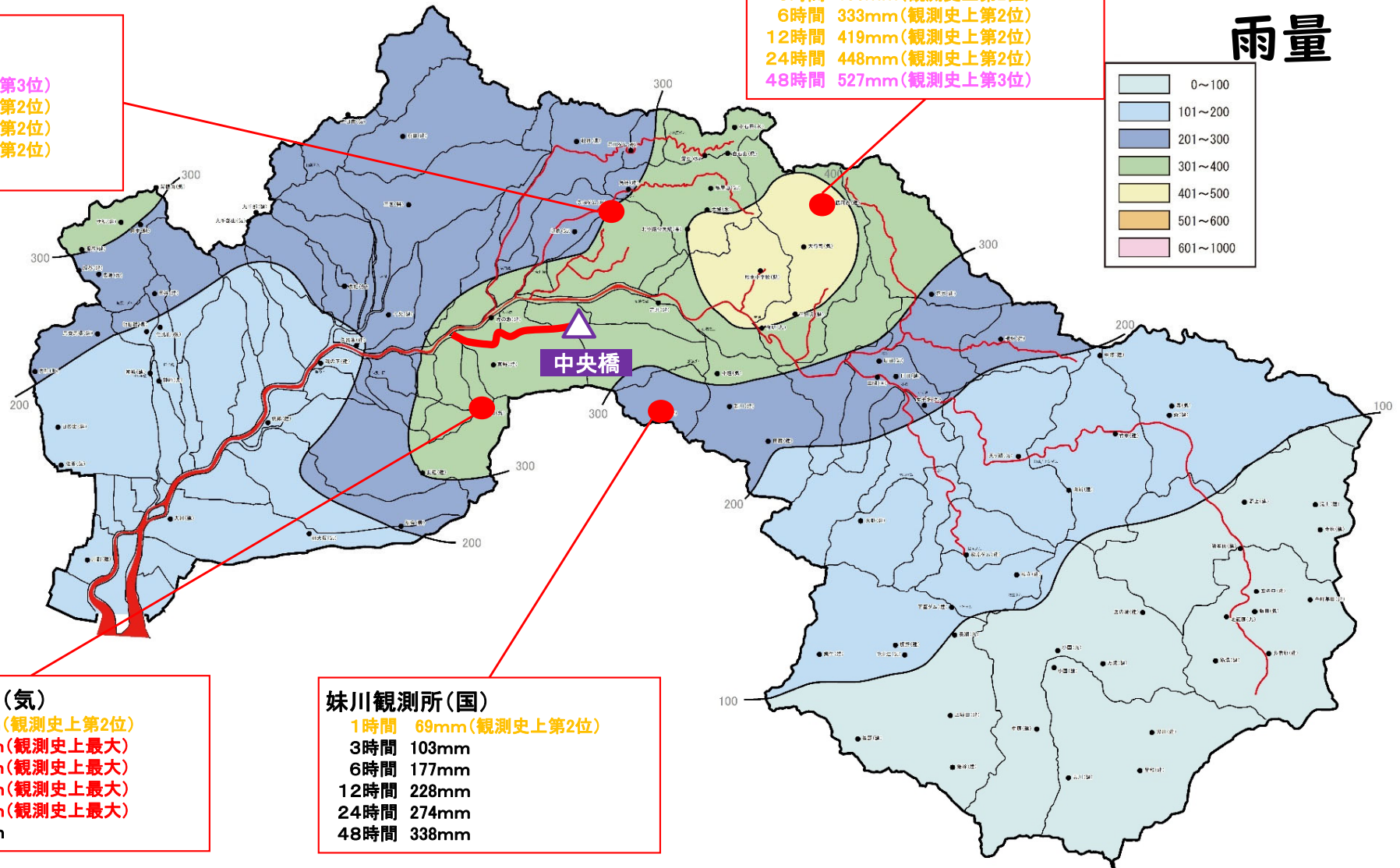


角枝観測所(国)

1時間 54mm
3時間 125mm(観測史上第3位)
6時間 210mm(観測史上第2位)
12時間 292mm(観測史上第2位)
24時間 329mm(観測史上第2位)
48時間 399mm

鶴河内観測所(国)

1時間 77mm(観測史上第3位)
3時間 196mm(観測史上第2位)
6時間 333mm(観測史上第2位)
12時間 419mm(観測史上第2位)
24時間 448mm(観測史上第2位)
48時間 527mm(観測史上第3位)



耳納山観測所(気)

1時間 73mm(観測史上第2位)
3時間 157mm(観測史上最大)
6時間 300mm(観測史上最大)
12時間 365mm(観測史上最大)
24時間 399mm(観測史上最大)
48時間 446mm

妹川観測所(国)

1時間 69mm(観測史上第2位)
3時間 103mm
6時間 177mm
12時間 228mm
24時間 274mm
48時間 338mm

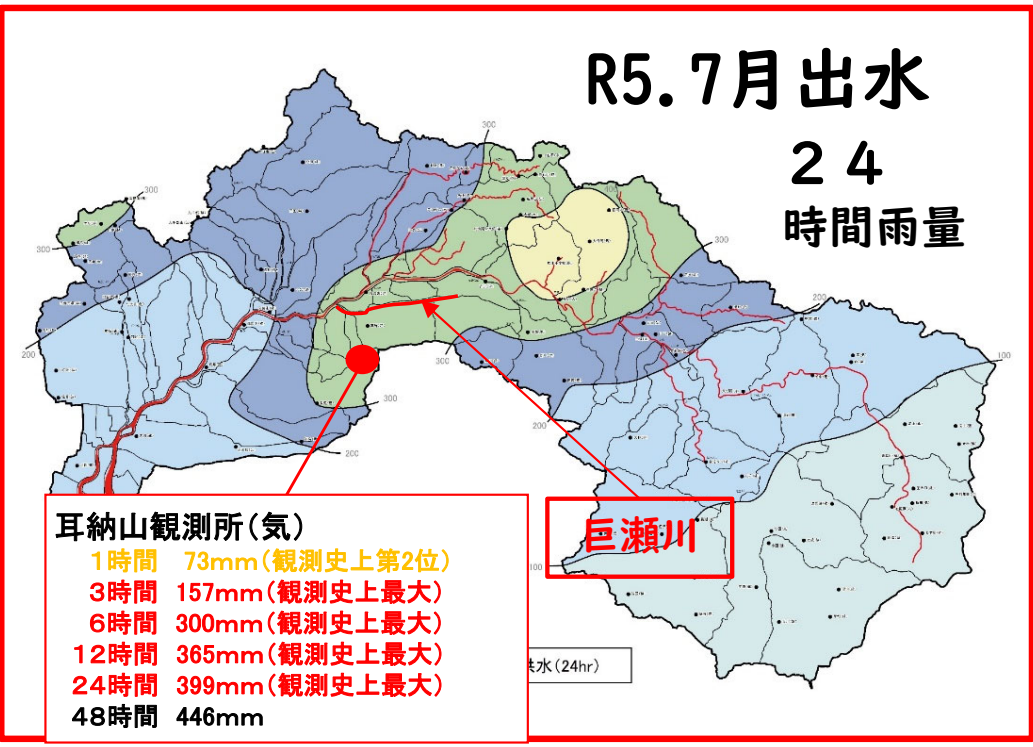
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

3. 筑後川流域の降雨の概要③（過去出水の降雨分布との比較）

令和5年7月、平成29年7月（九州北部豪雨）は、どちらも中流域に降雨量が多く形状は類似しています。
しかし令和5年7月の等雨量線図は24時間、平成29年は48時間、比較すると短時間で大きな雨が降ったことになります。

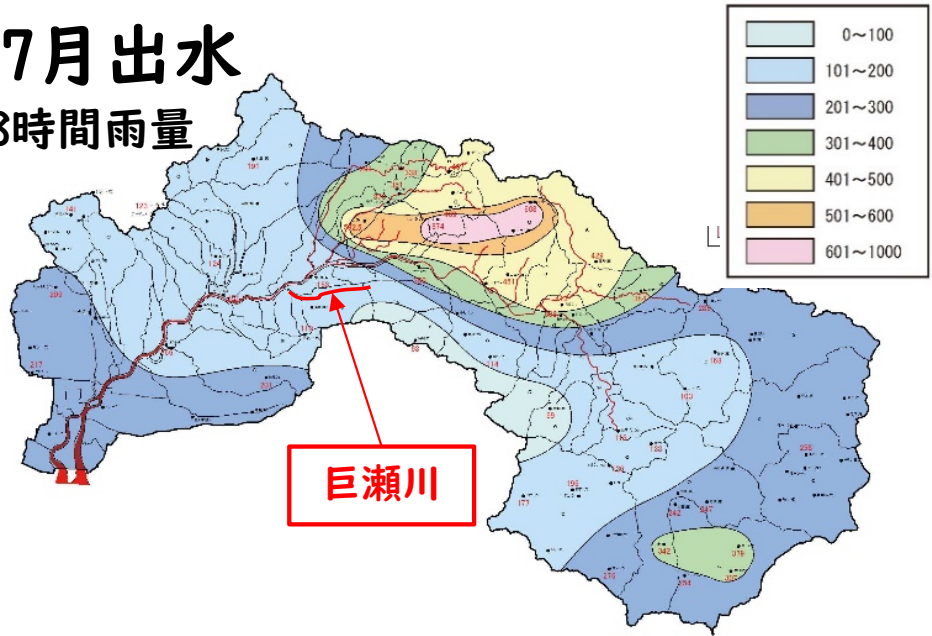
R5. 7月出水

24
時間雨量



H29. 7月出水

48時間雨量



H30. 7月出水

48時間雨量



R2. 7月出水

48時間雨量



R3. 8月出水

48時間雨量



4. 筑後川水系の水位の概要

城原川、巨瀬川、小石原川、花月川で氾濫が発生しました。また、筑後川本川の荒瀬観測所、片ノ瀬観測所、宝満川の端間観測所、佐田川の金丸橋観測所で氾濫危険水位を超過しました。

筑後川河川事務所管内における河川水位（速報値）

水系名	河川名	観測所名	位置 (河口又は合流点からの距離: km)	今回最高水位			水防団 待機水位 (m)	氾 濫 注意水位 (m)	避難判断 水 位 (m)	氾 濫 危険水位 (m)	既往最高水位	
				日	時	水位(m)					水位(m)	年月日
筑後川	筑後川	小瀬	日田市小瀬町	(76.59)	7/10	12:20	3.30	2.20	3.00	4.00	4.50	5.39 R2.7.7
	筑後川	荒瀬	うきは市浮羽町三春	(62.08)	7/10	10:20	6.49	3.40	5.00	5.90	6.30	7.90 R2.7.7
	筑後川	片ノ瀬	久留米市田主丸町菅原	(40.61)	7/10	11:50	10.25 観測史上3位	5.40	6.70	7.80	8.50	10.52 R2.7.7
	筑後川	瀬ノ下	久留米市瀬下町浜町上	(25.48)	7/10	12:20	7.08 観測史上2位	3.50	5.00	6.80	7.10	9.02 S28.6.28
	筑後川	杖立	小国町下城	(99.80)	7/9	14:40	5.17	4.50	5.00	5.30	6.00	9.92 R2.7.8
	城原川	日出来橋	神埼市神埼町竹	(7.97)	7/10	6:20	5.54 観測史上1位	2.00	2.50	3.50	4.32	4.92 H21.7.26
	田手川	田手橋	吉野ヶ里町田手	(10.00)	7/10	6:10	2.22	1.50	1.80	2.90	3.52	3.36 S47.7.12
	宝満川	端間	小郡市端間	(7.93)	7/10	8:50	5.28 観測史上3位	2.40	3.60	4.00	4.65	5.47 H30.7.6
	巨瀬川	中央橋	久留米市田主丸町	(9.98)	7/10	9:50	3.49 観測史上1位	1.20	1.90	2.20	2.54	3.30 R1.8.28
	小石原川	柴田橋	大刀洗町柴田	(3.24)	7/10	7:20	4.43 観測史上1位	2.00	2.50	3.10	3.71	4.40 H30.7.6
	佐田川	金丸橋	朝倉市金丸	(2.39)	7/10	11:50	3.89 観測史上1位	1.50	2.50	3.50	3.87	3.60 R3.8.14
	花月川	花月	日田市丸山町	(3.38)	7/10	10:10	3.37 観測史上5位	0.90	1.60	2.20	3.35	4.53 H29.7.5
	隈ノ上川	西隈ノ上	うきは市浮羽町西隈ノ上	(0.75)	7/10	10:20	2.87	1.40	2.00	2.40	2.88	3.72 S44.7.1

◎水位危険度レベル

水防団待機水位	レベル1	水防団が水防活動を行うために待機する水位です。
氾濫注意水位	レベル2	避難行動の準備を行う目安となる水位です。
避難判断水位	レベル3	避難行動を行う目安となる水位です。
氾濫危険水位	レベル4	氾濫危険水位を越えると、氾濫の恐れがあります。
氾濫の発生	レベル5	堤防の決壊などにより、氾濫した時点でレベル5となります。

氾濫発生 : 4箇所
氾濫危険水位を超過 : 4箇所
避難判断水位を超過 : 2箇所
氾濫注意水位を超過 : 3箇所

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

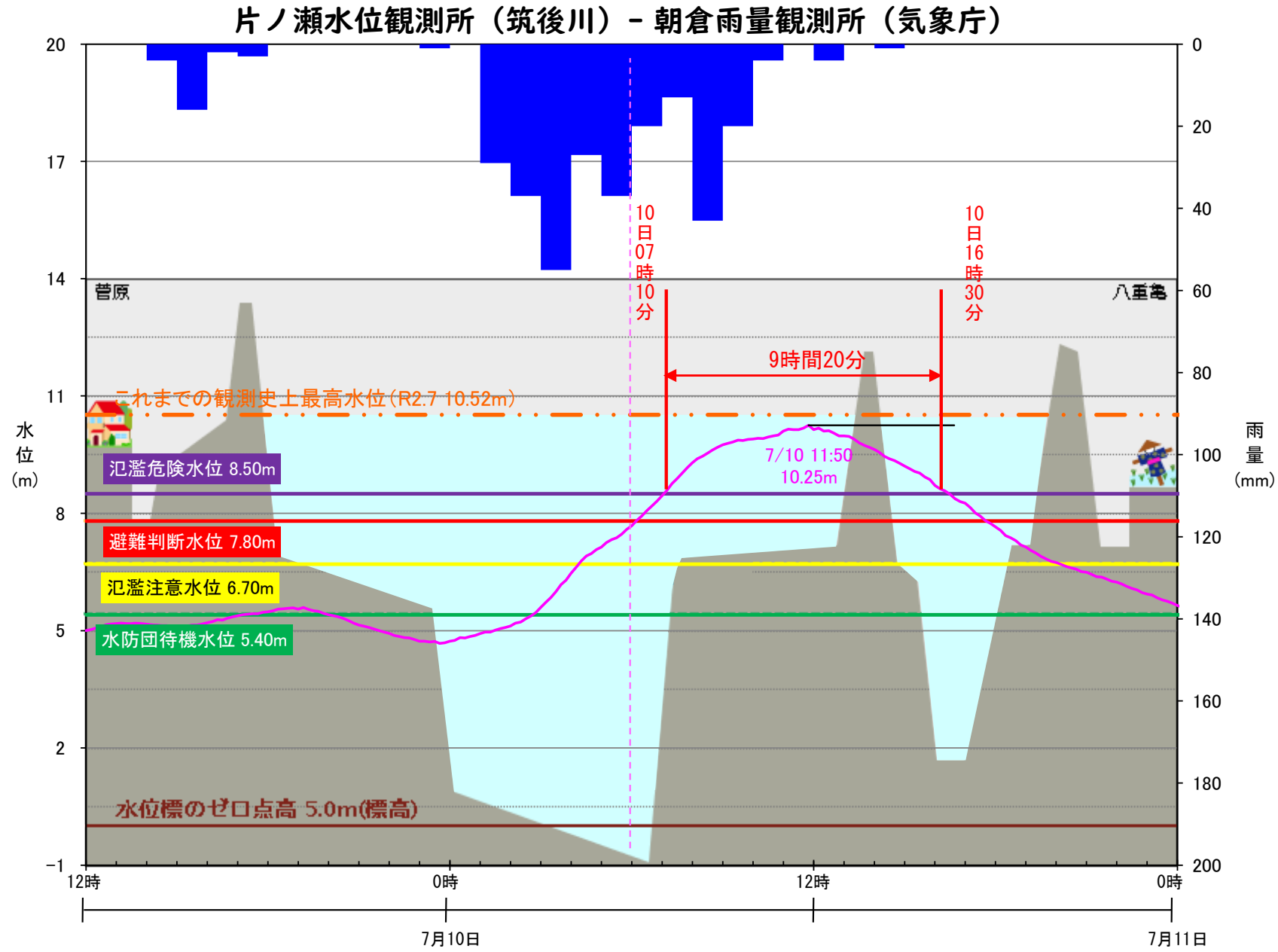
九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau
筑後川河川事務所

巨瀬川合流点から約10km下流の瀬ノ下水位観測所は、氾濫危険水位に迫る観測史上2位の水位を記録しました。

5

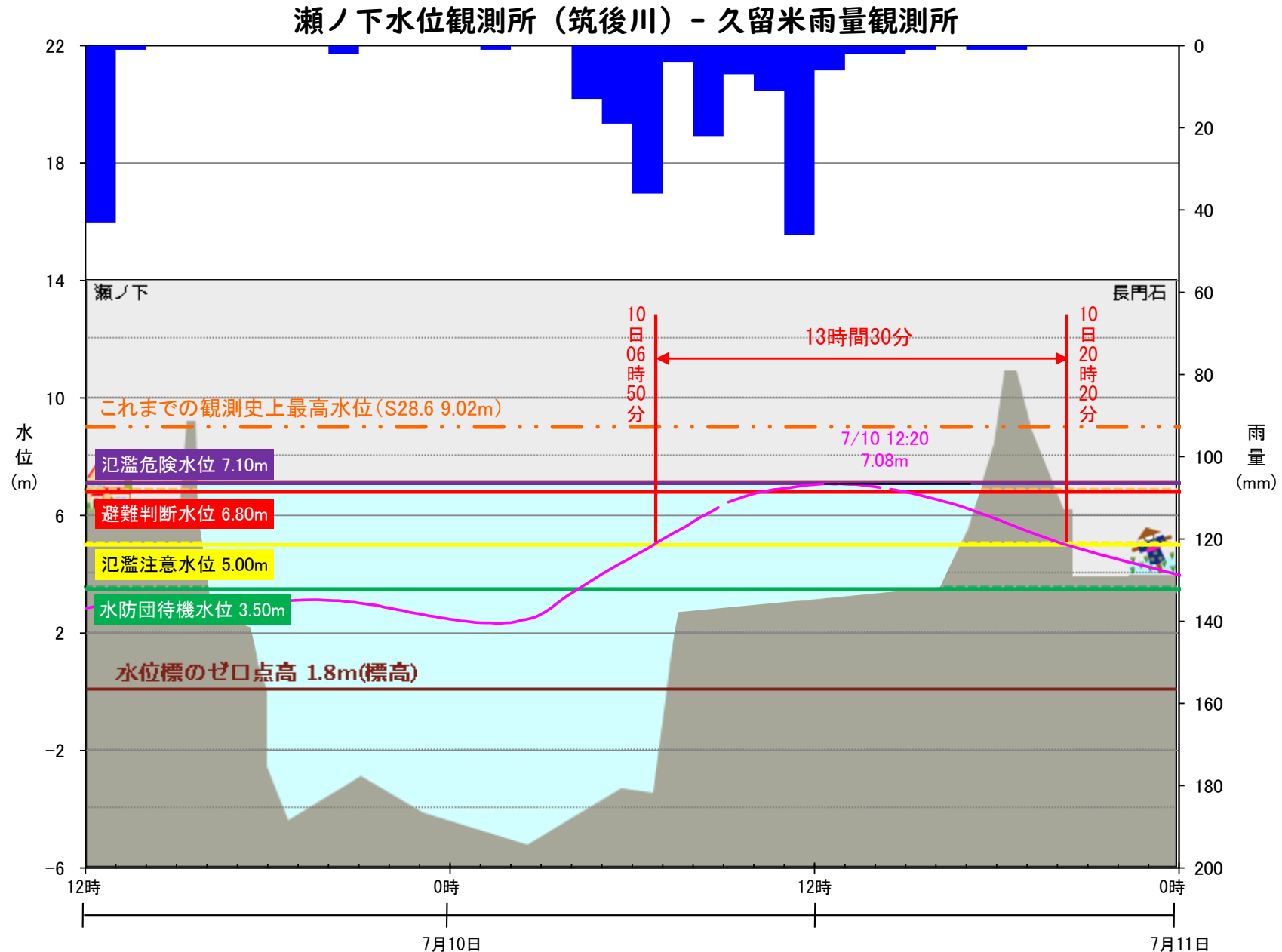
6. 筑後川流域の河川水位と降雨（片ノ瀬観測所）

久留米市内の片ノ瀬観測所では、7月10日4時20分～20時10分までの15時間50分にわたり氾濫注意水位を、7月10日6時10分～17時50分までの11時間40分にわたり避難判断水位を、**7月10日7時10分～16時30分までの9時間20分にわたり氾濫危険水位を超過しました。**



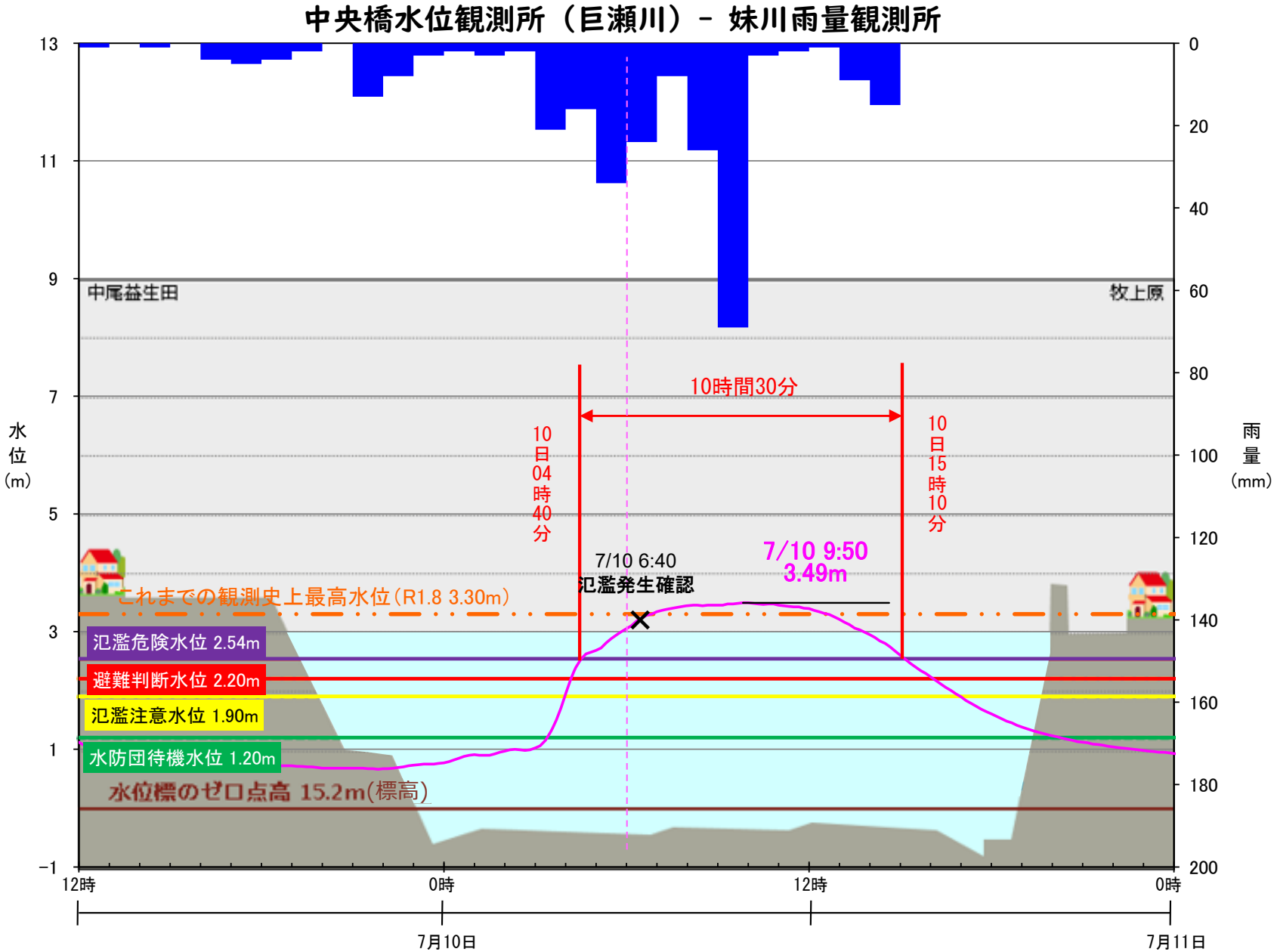
7. 筑後川流域の河川水位と降雨（瀬ノ下観測所）

久留米市内の瀬ノ瀬観測所では、7月10日6時50分～20時20分までの13時間30分にわたり氾濫注意水位を、7月10日10時20分～15時10分までの4時間50分にわたり避難判断水位を超過しました。



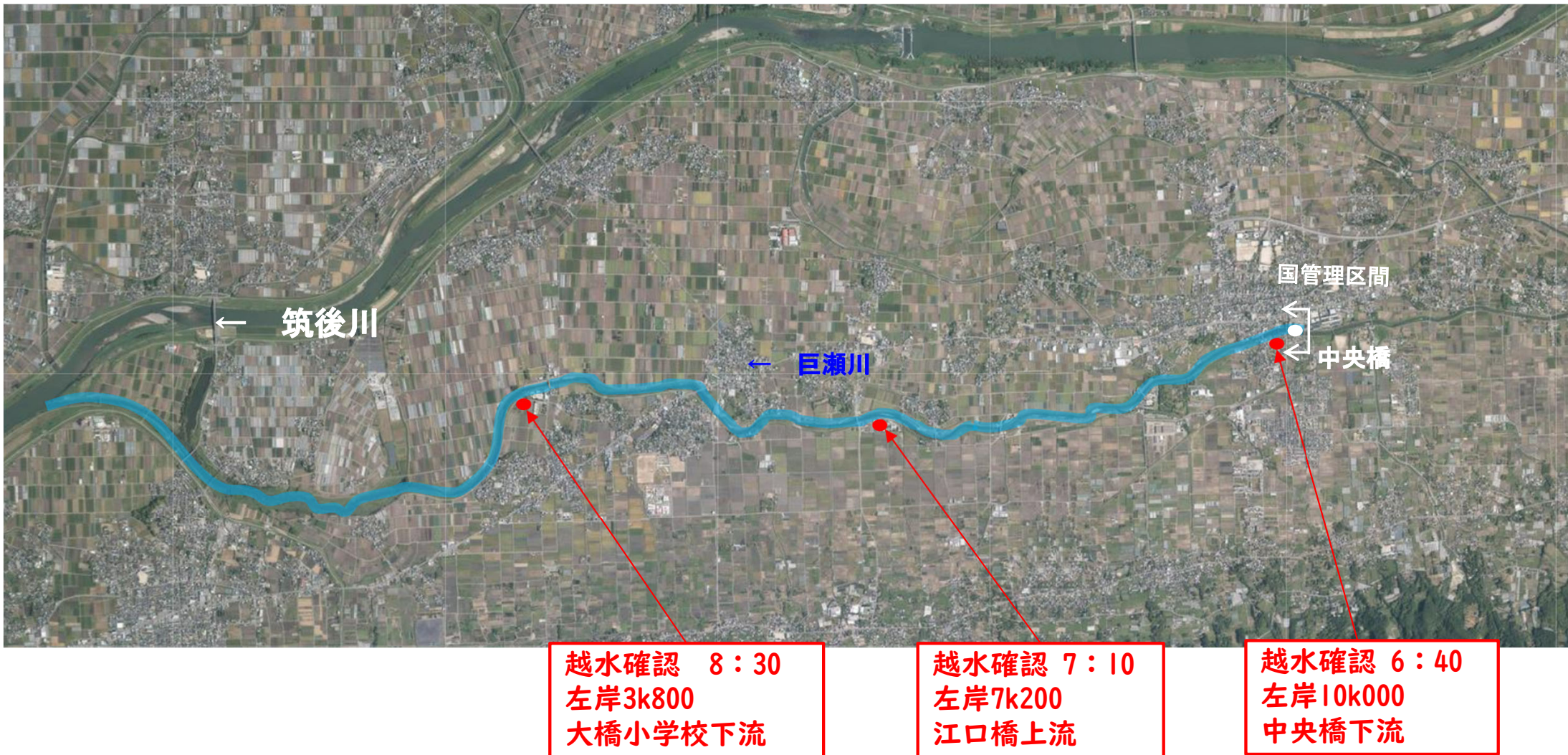
8. 巨瀬川の水位と降雨（中央橋観測所）

久留米市田主丸町の中央橋観測所では、7月10日4時00分～17時00分までの13時間にわたり氾濫注意水位を、7月10日4時20分～16時10分までの11時間50分にわたり避難判断水位を、7月10日4時40分～15時10分までの10時間30分にわたり氾濫危険水位を超過しました。また、7月10日6時40分に氾濫発生を確認しました。

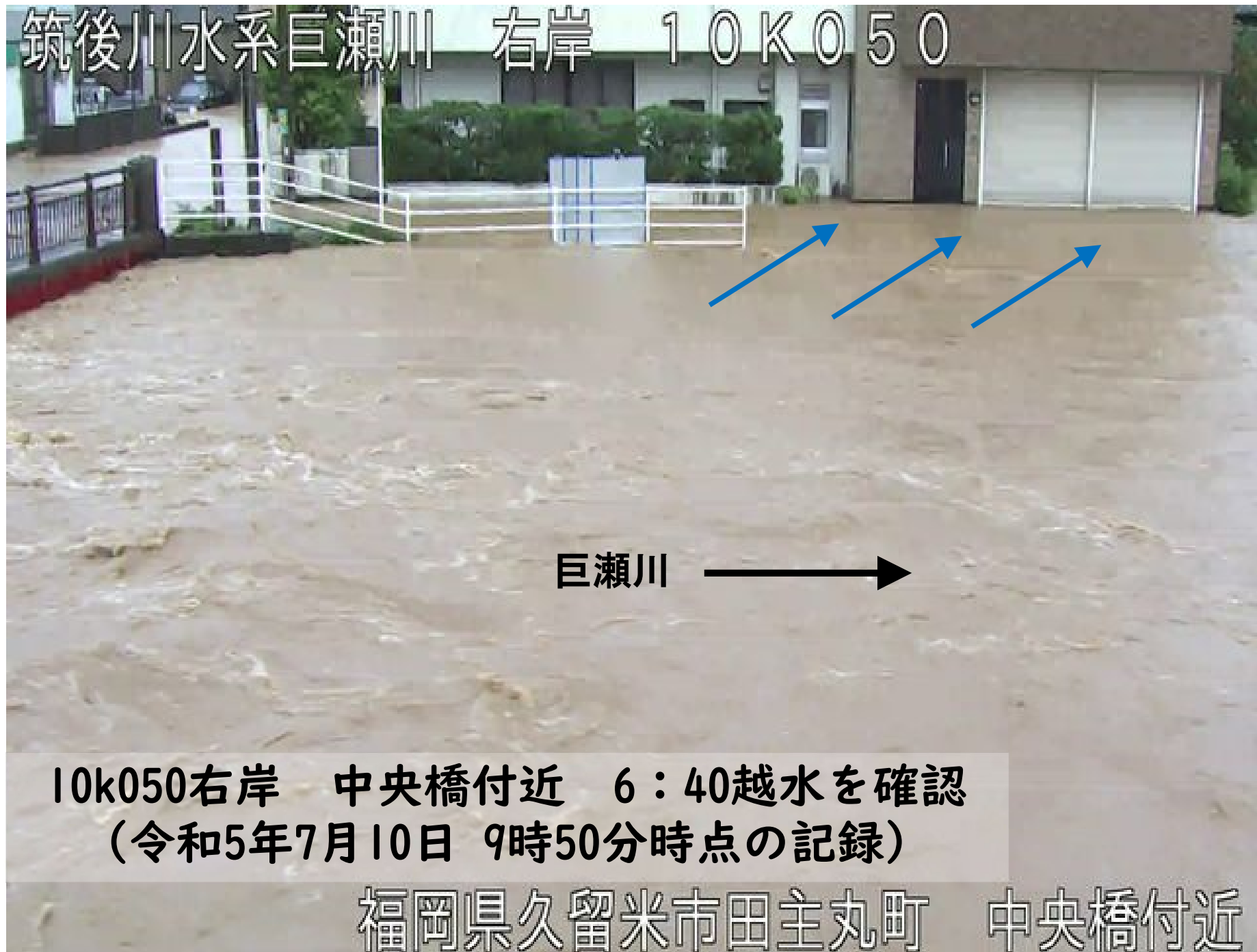


9. 巨瀬川（国管理区間）の氾濫箇所位置図

- 筑後川事務所の防災体制中の河川巡視にて、確認された越水地点は3地点。
そのほかの範囲は、浸水で巨瀬川に近寄れず、情報が得られませんでした。



※ 7月10日午前中は周辺道路等が冠水し、堤防付近に近寄れない状況でした。



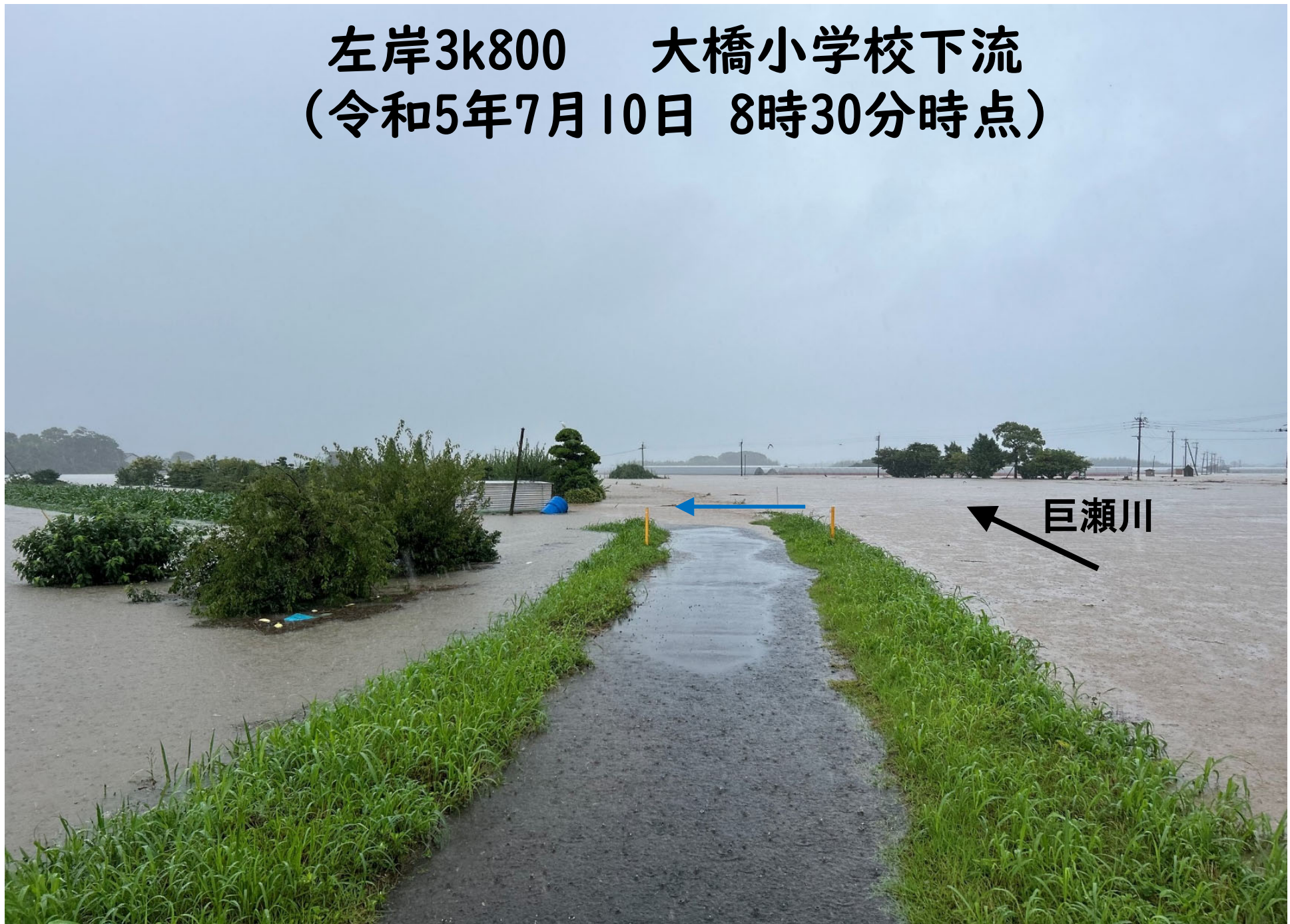
左岸10k000 中央橋下流
（令和5年7月10日 7時15分時点）



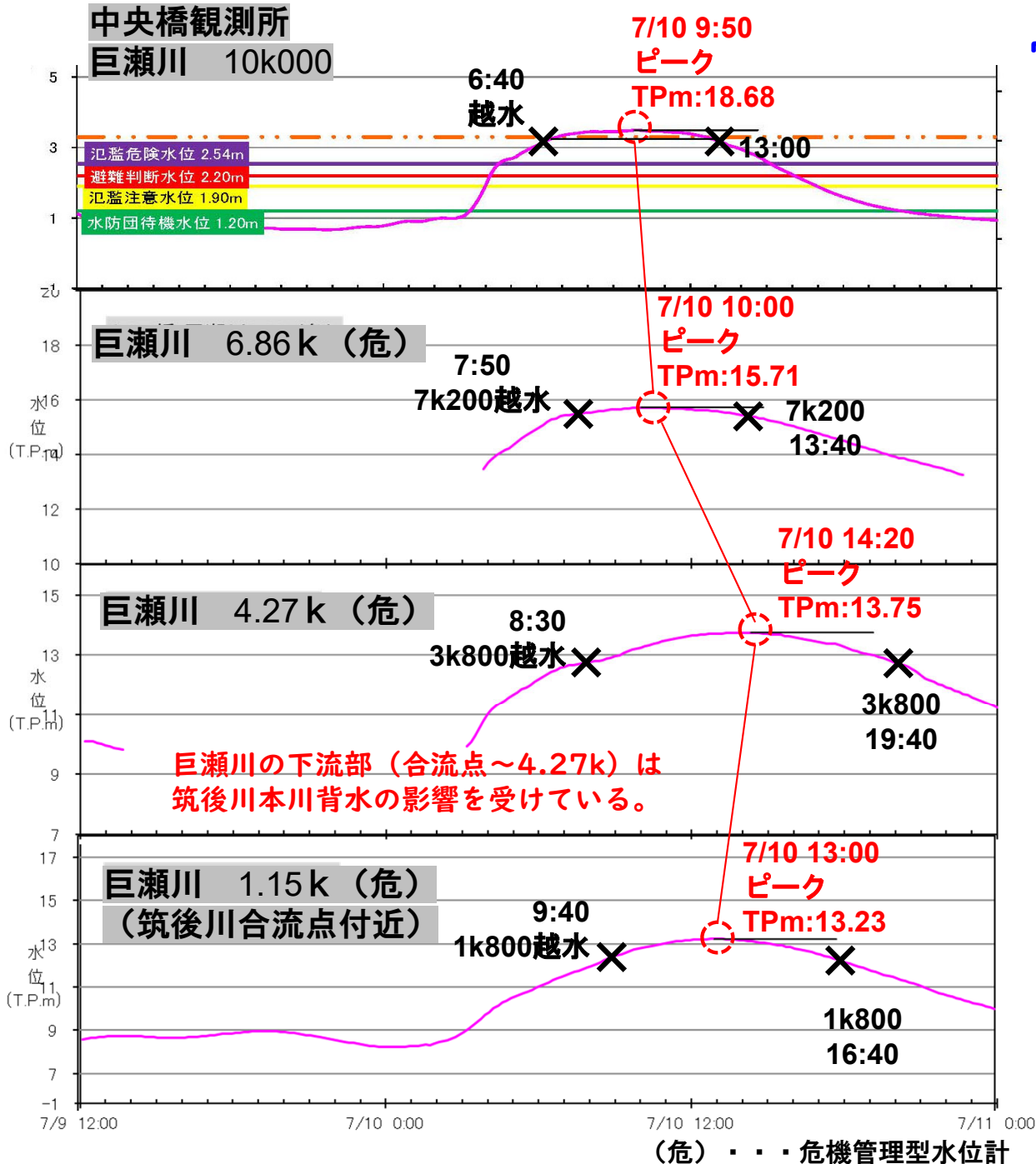
左岸7k200 江口橋上流
(令和5年7月10日 7時50分時点)



左岸3k800 大橋小学校下流
（令和5年7月10日 8時30分時点）



10. 河川水位等から推定した越水時間



7月10日水位から推定した越水時間

10k000 中央橋観測所 水位状況

6:40 T.P+18.43m 越水を確認

9:50 T.P+18.68m (ピーク水位)

13:00 T.P+18.36m (越水確認水位程度まで下降)

⇒約6時間以上越水していた。

6k890付近の水位状況

※上流江口橋7k200で7:50越水を確認

7:50 T.P+15.51m (越水確認水位)

10:00 T.P+15.71m (ピーク水位)

13:40 T.P+15.48m (越水確認水位程度まで下降)

⇒約6時間、越水していた。

4k270の水位状況

※下流3k800で8:30に越水を確認

8:30 T.P+12.84m (越水確認水位)

14:20 T.P+13.75m (ピーク水位)

19:40 T.P+12.85m (越水確認水位程度に下降)

⇒約11時間、越水していた。

1k150の水位状況

※1k000左岸の堤防高 T.P+12.64m

9:40 T.P+12.66m (堤防高程度)

13:00 T.P+13.23m (ピーク水位)

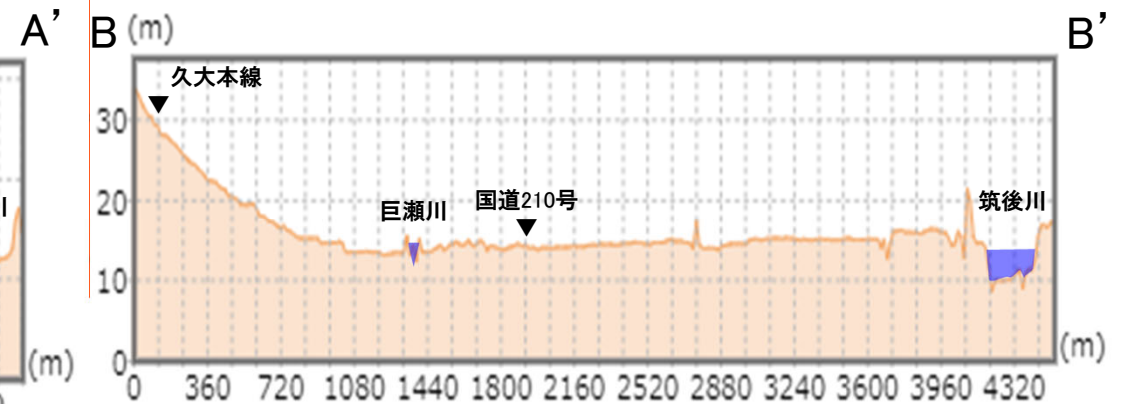
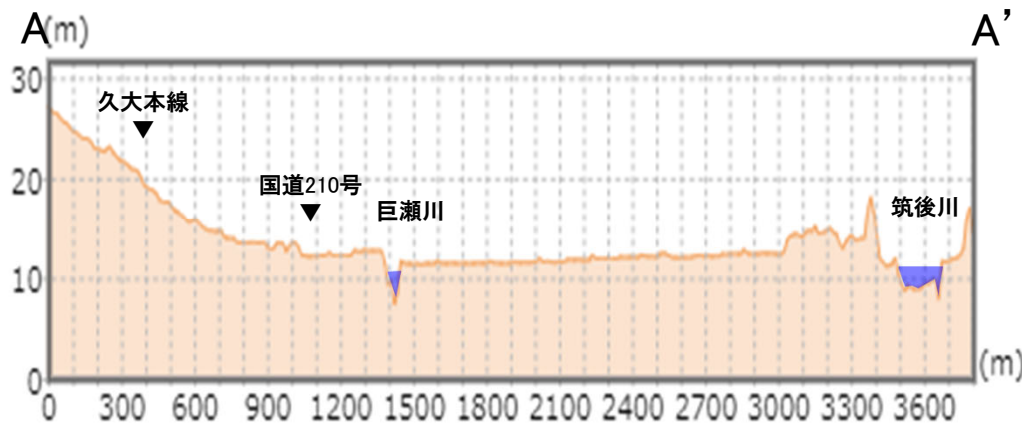
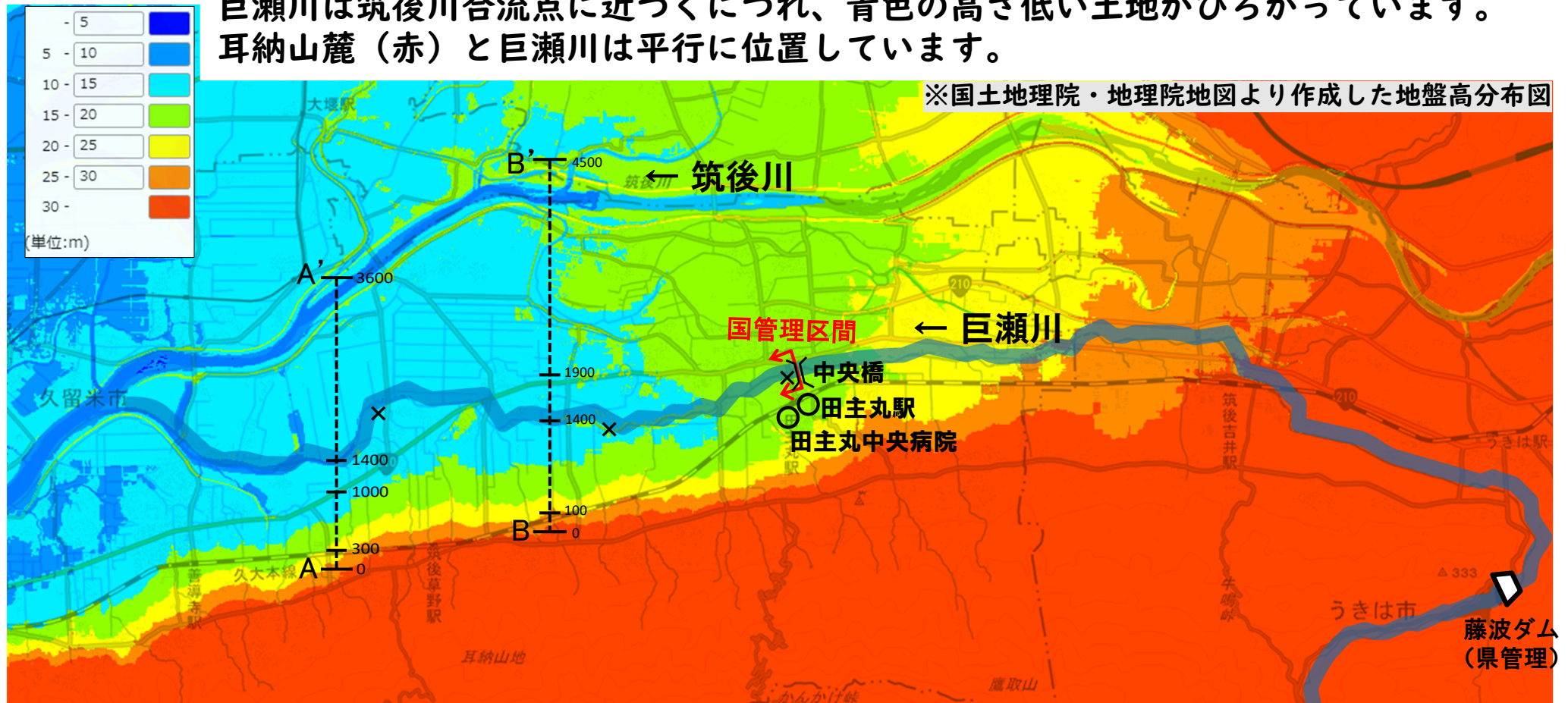
16:40 T.P+12.65m (堤防高程度)

⇒約7時間、越水していた。

II. 巨瀬川流域の地形の特徴

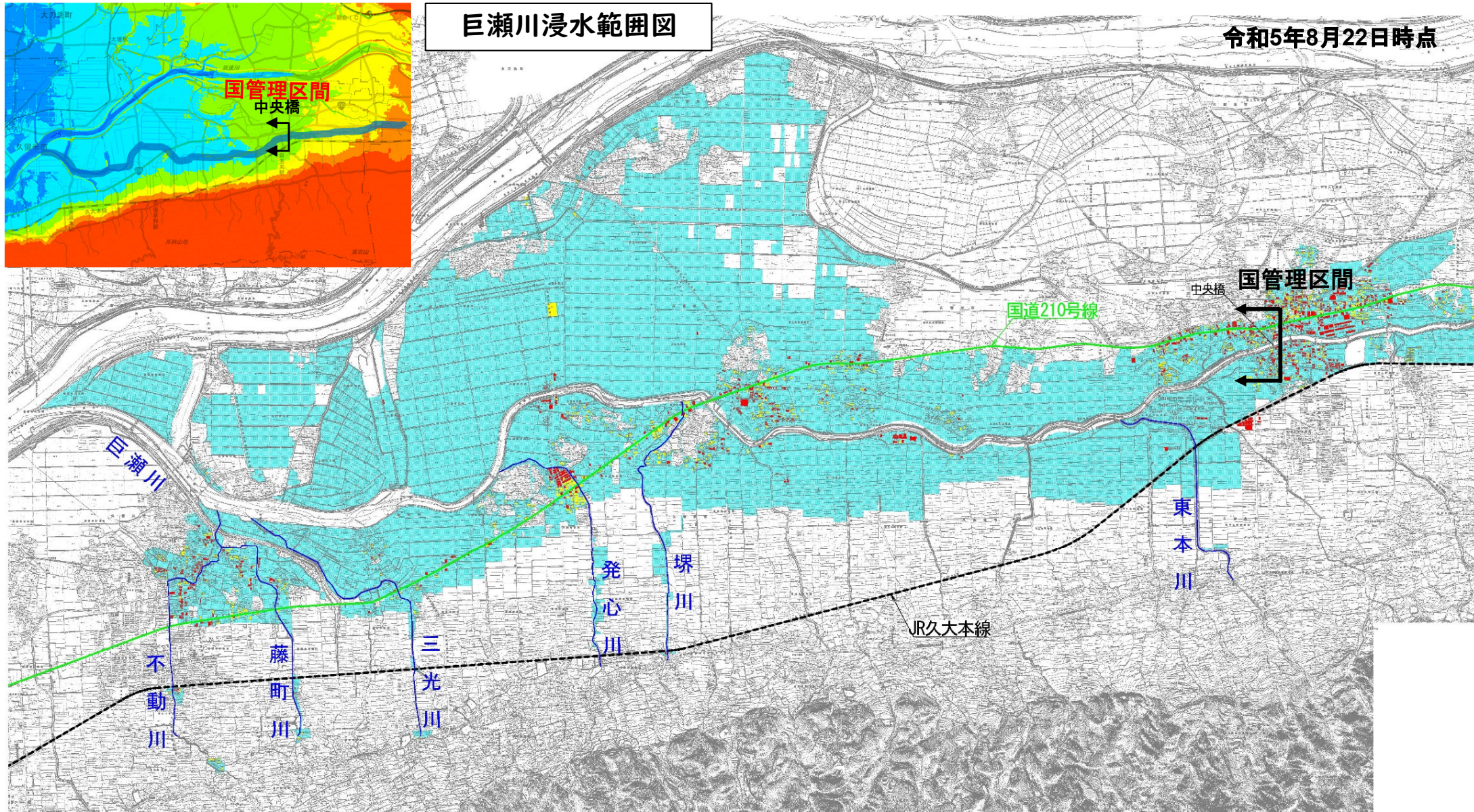
巨瀬川は筑後川合流点に近づくにつれ、青色の高さ低い土地がひろがっています。
耳納山麓（赤）と巨瀬川は平行に位置しています。

※国土地理院・地理院地図より作成した地盤高分布図



12. 巨瀬川浸水範囲図と地盤高さ分布図の比較

浸水範囲と、地盤高分布の青色の低い土地の形がほぼ重なっています。
耳納山麓から巨瀬川に向かい真っすぐ流れる複数の支川も溢れており内水被害も発生しています。



13. 巨瀬川（直轄管理区間）の被災箇所位置図

直轄管理区間の、巨瀬川右岸9k050で、護岸の被災を確認しました。
複数個所で越水を確認していますが、巨瀬川の直轄管理区間では、その他の施設の被災はありませんでした



14. 巨瀬川（国管理区間）の被災状況

護岸の被災延長約50m。7月12日18時に応急復旧工事に着手、7月13日午前3時に完了しました。

